

形容詞連用形のスペイン語訳に関して

土屋 博嗣

1

日本語の形容詞は文中での機能を活用形によって表す。この場合の機能とは、名詞を修飾するか、動詞を修飾するか、文を完結するかといったことである。故に、同じ形容詞が活用形によっては副詞（連用修飾語）として働く。

速い自動車 (un coche rápido)
 この自動車は速い (Este coche es rápido.)
 マリアさんは速く話す (María habla rápido.)

「い形容詞」の場合、名詞を修飾したり、文を完結する場合は「はやい」の形が使われ、動詞を修飾する場合は「はやく」の形が使われる。スペイン語訳では形容詞は連体修飾の時は一般的には名詞に後続し、文を完結する時は繫辞である「ser, estar」に後続する。連体修飾、文を完結する時は名詞と性数が一致するように形容詞は語形が変化する。名詞に女性名詞、例えば *bicicleta* があれば、*una bicicleta rápida, esta bicicleta es rápida* となる。連用修飾の時には、形容詞がそのまま副詞に転用されることもあり、その場合形容詞の性数は名詞とは一致せず、男性形のみである¹⁾。日本語とスペイン語の形容詞の形の違いはスペイン語の性数による語形変化を別にすれば、連用修飾で日本語が「—く」になるのに対して、スペイン語では形容詞がそのまま使われていることである。

まじめな学生 (un estudiante serio)

あの学生はまじめだ (Aquel estudiante es serio.)

まじめに勉強する (estudiar seriamente)

「な形容詞(形容動詞)」の場合、名詞を修飾する時は「まじめな」、文を完結する時は「まじめだ」、動詞を修飾する時は「まじめに」の形が使われる。スペイン語訳では「い形容詞」の場合と同様に連体修飾、文を完結する時には形容詞がそのまま使われ、連用修飾では「～mente」の形になっている。「な形容詞」では連体修飾、連用修飾、文を完結する時と語尾が変化するが、スペイン語では性数を別にすれば語形の変わるのは連用修飾の時だけである。

ここでは「い形容詞」が「——く」、「な形容詞」が「——に」となり、用言を修飾する場合を考える。この形はスペイン語を母語とする日本語学習者が間違いやすい形である。

この「——く」「——に」の形は多くの場合スペイン語では「～mente」の語になる。

かれは任務を立派に遂行した。

Ejectó maravillosamente su encargo.

もっと詳しく話してください。

Hable más detalladamente.

橋は完全にできあがった。

El puente está construido perfectamente.

このように「——く」「——に」の形が「～mente」となる時は比較的問題がない。しかし、常に「——く」「——に」の形が「～mente」になるわけではない。とくに「——く」「——に」の形がスペイン語で形容詞(連体修飾語)と同じ形になる時誤りが生じることになる。

*はやい来てください。(Venga pronto.)

*さびしい感じます。(Me siento triste.)

これらは正しくは「はやく」「さびしく」と、動詞を修飾する形(連用形)を日本語では使わなければならない。スペイン語では形としては形容

詞（連体修飾語）と同じであるため、名詞を修飾する形「はやい」「さびしい」が使われたものであろう。

このような誤りを除くためには、日本語の形容詞（「い形容詞」+「な形容詞」）の連用形副詞²⁾の用法にスペイン語がどのように対応しているかを見る必要がある。

2

まず日本語の形容詞連用形について分類をする。この分類はその形容詞連用形が文中でどのような構文的意味を担っているかを観点にしてなされている。

1. 動詞を表す動作の結果の状態を表す。

字を大きく書く。

豆を甘く煮る。

これらは「大きく」「甘く」が「書く」「煮る」という動作の仕方を表しているのではなく、「書く」「煮る」という動作の結果出現した状態を表している。「字を大きく書く」という動作の結果出現するのは「大きい字」であり、「豆を甘く煮る」という動作の結果出現するのは「甘い豆」である。

2. 「する」「なる」の形式動詞の前に来て、形式動詞の実質的意味を補足する。

部屋をきれいにする。

物の値段が高くなる。

構文的意味より考えるならば、これらは「きれいな部屋」「高い値段」と言えるので、「結果」を表すものであるが、1.の「書く」「煮る」などと異なり、「する」「なる」はともに単独では意味を成さず、その意味を補う機能をこの連用形は持っている。

3. 思考を表す動詞の前に来て、その思考の内容を表す。

息子を誇らしく思う。

失敗が残念に感じられる。

これらは「思う」「感じられる」ことの内容はどんなものであるかを連用形が表している。これらは

息子を誇らしいと思う。

失敗が残念だと感じられる。

のように、「終止形＋と（引用を表す助詞）」で言い換えることができる。

4. 動詞の表す動作・状態の程度を表す。

日本の工業は戦後著しく発達した。

腹がひどく痛む。

動詞の持つ程度がどのくらいであるかを表す。これらは「たいへん」「非常に」「ちょっと」「少し」などの程度副詞と同様の働きをしている。

5. 動詞の表す動作が行われる場所・時間を表す。

空高く鳥が飛ぶ。

朝早く起床する。

これらは「鳥が飛ぶ」場所、「起床する」時間を表したものである。

6. 動詞の表す動作が行われるときの様態を表す。

川が大きくうねっている。

速く仕事を片付ける。

急に笑い出す。

「大きく」は川のうねり方が大きいこと、「速く」は「仕事を片付ける」スピードが速いこと、また、「急に」は「笑い出す」ときの様子が「ゆっくり」ではなく、「急」であることを表す。これらは動詞の表す動作の様子を詳しく表現しているものである。

7. 動詞の表す事態に対しての話し手の判断・評価を表す。

確かにかれは来た。

珍しく山田さんが遅刻した。

これらの「確かに」「珍しく」は「来た」「遅刻した」という動詞だけにかかるのではなく、「彼が来たこと」「山田さんが遅刻したこと」に対する

話し手の判断・評価を表したものである。これらは
かれが来たことは確かだ。

山田さんが遅刻したことは珍しい。
などと言い換えることができる。

以上のように、形容詞連用形の構文的意味は、1. 結果, 2. 「する・なる」, 3. 内容, 4. 程度, 5. 場所・時間, 6. 様態, 7. 判断・評価の七種に分類することができる。

3

次にこれらの形容詞連用形がスペイン語ではどのように訳されているかを見てみよう。資料としては例文が豊富な『和西辞典』（白水社）を使用した。この辞典に取り上げられている形容詞連用形を選び、その訳とともにカードに取った。カードを取る時に留意した点は次の通りである。

1. 「い形容詞」については「——く」の形ばかりでなく、「——い」の形を持ち、連体修飾、言い切りの時にも使われるものを取った。同様に「な形容詞」についても「——に」の形ばかりでなく、「——な」で連体修飾、「——だ」で言い切りの時に使われるものを取った。例えば、「折りよく」は「折りよい」という形がないため、形容詞連用形とは見ず、単なる副詞であると見なし、取り上げなかった。
2. 辞典の例文であることから、日本語一文に対してスペイン語訳文が複数挙げられていることがある。例えば、

この本は容易に手に入る。

Podemos adquirir este libro fácilmente.

Se puede hallar este libro sin dificultad.

のように、スペイン語では「*fácilmente*」と「*sin dificultad*」の2通りの訳がなされている。このような場合には、スペイン語にそって取り上げ、前者は「～mente」、後者は「sin＋名詞」の項目にそれぞれ入れた。

3. 用例は文であるものだけを取り上げ、文になっていない句のものは取

り上げなかった。

背中を丸くする *encorvarse, corcovarse*

猫が丸くなっている。 *El gato está ovillado.*

この場合、前者はスペイン語訳が原形で示されていることからわかるように、文ではなく、句なので取り上げない。後者は大文字で始まり、動詞が語形変化をしているので、文と見なし、取り上げた。

次に、形容詞連用形がスペイン語でどのように訳されたかを、スペイン語の動詞・形容詞・副詞の品詞に分け、パターンに分類してみた。

I. スペイン語で動詞に訳されたもの。

日本語では「形容詞連用形+動詞」で表現されている文が、スペイン語ではその形容詞・動詞をとともに意味として含んだ動詞一語に訳されている。

a. 「する・なる」

痛みが少し楽になった。

Se ha aliviado un poco el dolor.

本人の気持ちを大切にしよう。

Respetemos su propio sentimiento.

b. 結果

もみじが赤く色づく。

Se enrojecen las hojas del arco.

彼の夢は大きくふくらんだ。

Su sueño alcanzó nuevas proporciones.

c. 内容

お目にかかれたことを大変うれしく思います。

Me alegro mucho de verle a usted.

彼が家にいなかったのは不思議に思われる。

Me extraño que no estuviera en casa.

d. 様態

楽しく遊びましょう。

Vamos a divertirnos.

雨がさらに激しく降ってきた。

Arreció la lluvia.

e. 判断

私は確かに電話しましたが、誰も出ませんでした。

Le aseguro que llamé por teléfono, pero no me contestó nadie.

書類は確かに受け取りました。

Acusamos recibo de los documentos.

| | する・なる | 結果 | 内容 | 様態 | 判断 | 計 |
|-------|-------|------|------|-------|------|--------|
| 用例数 | 76 | 6 | 9 | 19 | 2 | 112 |
| パーセント | 67.9% | 5.4% | 8.0% | 17.0% | 1.8% | 100.1% |

予想されたことではあるが、スペイン語で動詞一語になる語は「する・なる」の形式的動詞の前に来る語が圧倒的に多い。日本語でも形式的動詞を後続させる形容詞は「赤くする→赤らめる」「赤くなる→赤らむ」と動詞一語で言い表しうるのであるから、スペイン語においても同様のことは起こりやすいと思われる。

次に「様態」であるが、この類に入っている「様態」を表す形容詞連用形には

その子は急に泣き出した。

El niño rompió a llorar.

彼は急に走り出した。

Echó a correr.

私は無理に彼を歩かせた。

Le forcé a andar.

などがあり、「急に～出した」「無理に～させた」の部分がスペイン語では一語の動詞となっている。これは「様態」と一口に言っても、「楽しく遊ぶ」「激しく降る」とは異なった修飾のかかり方があり、それは多分に「～

出す」「～させる」などの補助動詞・助動詞の部分とかかわっていることを思わせる。

また、「判断」を表す「確かに」が動詞で表現された場合は「que」を伴う節を後続させており、スペイン語訳をそのまま日本語に戻すと

私が電話したことは確かです。

となり、「確かに」が句全体にかかる修飾語であることを明らかにしている。

II. スペイン語で形容詞に訳されたもの。

日本語では形容詞連用形となっているものが、連用形の機能である連用修飾とは関係のない形で、形容詞がそのままの形で訳されているものである。この場合には大きく分けて2通りのケースが見られる。(1)は述語的補語と言われるものであり、(2)は連体修飾になっているものである。

1. 述語的補語になっているもの。

a. 「する・なる」

彼女はびっくりするほど美しくなった。

Se ha puesto asombrosamente guapa.

彼はパーティーを楽しくする工夫をこらした。

Él se las ingenió para hacer la fiesta agradable.

b. 結果

山々が水面に黒く映っている。

Las montañas se reflejan obscuras en el agua.

c. 内容

それを知って、とても悲しく思った。

Me sentí muy triste al saberlo.

時間が長く感じられる。

El tiempo me parece largo.

Encuentro el tiempo largo.

| | する・なる | 結 果 | 内 容 | 計 |
|-------|-------|------|------|------|
| 用 例 数 | 73 | 3 | 8 | 84 |
| パーセント | 86.9% | 3.6% | 9.5% | 100% |

これらは限られたスペイン語の動詞が数多く使われているので、その数の多い方から動詞を並べてみる。

| | | | |
|-------------|----|----------------|---|
| hacer (se) | 26 | parecer (se) | 4 |
| poner (se) | 15 | resultar | 2 |
| sentir (se) | 8 | tener | 2 |
| volver (se) | 8 | encontrar (se) | 2 |
| quedar (se) | 7 | その他各 1 例ずつ | |

これらの動詞は日本語では「する」「なる」「感じる」「変える（変わる）」「見える」「思える」「～結果になる」などと訳され、形容詞連用形の構文的意味としては、「結果」「内容」を取る動詞である。

今回の資料からは見つからなかったが、「様態」でも

El niño duerme tranquilo.

子供は静かに眠っている。

Los dos viven felices en el campo.

二人は田舎で幸福に暮らしている。

などがあり、主語・動詞の両方にかかる修飾語と言われている。

2. 連体修飾になっているもの。

この連体修飾の修飾語として形容詞が使われているものは、被修飾語の名詞として何を取るかによって2通りに分かれる。

① 主語または目的語の名詞がスペイン語で被修飾名詞になり、形容詞が修飾語となる連体修飾である。

a. 「する・なる」

私は原作を読んで感激を新たにした。

Leyendo el original experimenté una emoción nueva.

会議の風向きが悪くなった。

La conferencia ha tomado un giro desfavorable a nosotros.

b. 結果

その思想は民衆の間に深く根を下ろしている。

Esa ideología ha hechado profundas raíces en el pueblo.

塔の影が長くのびている。

La torre proyecta su sombra alargada.

この主語・目的語を被修飾名詞とする形は「する・なる」及び「結果」にしか見られなかった。これらはスペイン語訳を日本語に戻すと、

a. 新たな感激をする

悪い風向きになる

b. 深い根を下ろしている

長い影を映している

となる。この形が可能であるのは、日本語の形容詞連用形が名称の示す通り文法的には後続の用言にかかる連用修飾語でありながら、意味的には主語や目的語名詞にかかっていることを示している。

② 日本語の被連用修飾語である動詞がスペイン語では名詞となり、形容詞連用形がスペイン語の形容詞である修飾語となる連体修飾である。

a. 様態

川が大きくうねる。

El río forma una gran curva.

彼の心は微妙に変化した。

Su corazón experimentó un delicado cambio.

b. 程度

原料が著しく不足している。

Acusamos una falta exordinaria de materias primas.

今朝はひどく冷える。

Hace un frío intenso esta mañana.

この動詞を名詞にし、形容詞を修飾語とした形は「様態」と「程度」に

しか見られない。これはまさに文法的にも意味的にも連用修飾になっているものである。「様態」は後続する動詞の行われる時の様子を詳しく述べるものであり、「程度」は後続する動詞の状態などの程度を述べるものなので、動詞の概念を名詞化できれば、スペイン語では形式的には連体修飾になっても、意味的には日本語の連用修飾がそのまま生かされていることになる。

① 名詞（主語・目的語）+形容詞

| | する・なる | 結 果 | 計 |
|-------|-------|-----|------|
| 用 例 数 | 6 | 9 | 15 |
| パーセント | 40% | 60% | 100% |

② 名詞（動詞の意味）+形容詞

| | 様 態 | 程 度 | 計 |
|-------|-------|-------|------|
| 用 例 数 | 11 | 4 | 15 |
| パーセント | 73.3% | 26.7% | 100% |

III. スペイン語で副詞に訳されたもの。

日本語の形容詞連用形は文中では連用修飾語として働くわけだから、基本的にはスペイン語でも連用修飾語である副詞に訳されるはずである。しかし、日本語では名詞・動詞・副詞・形容詞連用形などを含む連用修飾語の一部として形容詞連用形は位置を占めており、その多くは副詞によって連用修飾の働きが担われている。一方、スペイン語においては連用修飾語がそのまま副詞になっており、意味的に多様なものを含んでいる。その中で日本語形容詞連用形に対応するスペイン語の副詞は何かと言えば、形容詞の女性単数形に接尾辞「～mente」を付加した副詞であると考えられる。これは日本語の形容詞が連体形で連体修飾をする働きがあり、スペイン語でも「～mente」を除いた形容詞は連体修飾をすること、また、日本語の形容詞が終止形で文を完結する働きがあり、スペイン語でも「～mente」を除いた形容詞は繫辞の「ser, estar」を伴わなければならないが、述語として文を完結できるということから、日本語

の形容詞連用形にスペイン語の「～mente」を伴った副詞が対応すると考えることはあながち見当違いであるとは思われない。

そこで、ここでは「～mente」を持つ副詞を取り上げ、見てみることにする。

a. 結果

この家は頑丈に作られている。

Esta casa está construida sólidamente.

町は南北に細長くのびている。

La ciudad se alarga estrechamente de norte a sur.

b. 様態

蛍光灯が冷たく部屋を照らしていた。

Los tubos fluorescentes iluminaban fríamente la habitación.

本がきれいに並んでいる。

Los libros están bellamente ordenados.

c. 程度

彼はその話にひどく感激した。

Se conmovió profundamente al oír el relato.

d. 時間・場所

彼は物質的に恵まれている。

Es un hombre materialmente favorecido.

e. 判断

明らかにそれは誤りだ。

Evidentemente eso es un error.

| | 結果 | 様態 | 程度 | 場所 | 判断 | 計 |
|-------|------|-------|-------|------|------|-------|
| 用例数 | 6 | 56 | 15 | 5 | 6 | 88 |
| パーセント | 6.8% | 63.6% | 17.0% | 5.7% | 6.8% | 99.9% |

「～mente」を持つ副詞は「様態」「程度」の用例が多く見られた。スペイン語文法書などでも「～mente」が「様態・方法 (modo)」の副詞として

扱われていることから納得のいくところである。

「判断」の用例が少なからずあるが、これはスペイン語でも文にかかる副詞として「absolutamente, ciertamente, verdaderamente」などが挙げられており、それにつながっているものだと思われる。

4

今まで形容詞連用形のスペイン語訳の品詞にそって分類してきた。このほかにも副詞句、副詞慣用語になるものなど多数見られたが、ここでは形容詞連用形のスペイン語訳として代表的な動詞・形容詞・副詞を取り上げた。

ここで改めて、用数例を表にまとめてみると次のようになる。

| | | 「する・なる」 | 結果 | 内容 | 様態 | 程度 | 時間・場所 | 判断 | 計 |
|-------------------------|-------|---------|------|------|-------|------|-------|------|-----|
| 動 詞 | 実 測 値 | 76 | 6 | 9 | 19 | 0 | 0 | 2 | 112 |
| | 理 論 値 | 55.29 | 8.56 | 6.06 | 30.68 | 6.78 | 1.78 | 2.85 | |
| | 比 | 1.37 | 0.70 | 1.49 | 0.62 | 0 | 0 | 0.70 | |
| 形 容 詞 (述語的 補 語) | 実 測 値 | 73 | 3 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 84 |
| | 理 論 値 | 41.46 | 6.42 | 4.55 | 23.01 | 5.08 | 1.34 | 2.14 | |
| | 比 | 1.76 | 0.47 | 1.76 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 形 容 詞 体 (主語・ 目的語) | 実 測 値 | 6 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| | 理 論 値 | 7.40 | 1.15 | 0.81 | 4.12 | 0.91 | 0.24 | 0.38 | |
| | 比 | 0.81 | 7.83 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 形 容 詞 体 (動詞の 名詞形) | 実 測 値 | 0 | 0 | 0 | 11 | 4 | 0 | 0 | 15 |
| | 理 論 値 | 7.40 | 1.15 | 0.81 | 4.12 | 0.91 | 0.24 | 0.38 | |
| | 比 | 0 | 0 | 0 | 2.67 | 4.4 | 0 | 0 | |
| 副 詞 (~mente) | 実 測 値 | 0 | 6 | 0 | 56 | 15 | 5 | 6 | 88 |
| | 理 論 値 | 43.44 | 6.73 | 4.76 | 24.10 | 5.32 | 1.40 | 2.24 | |
| | 比 | 0 | 0.89 | 0 | 2.32 | 2.82 | 3.57 | 2.68 | |
| 計 | | 155 | 24 | 17 | 86 | 19 | 5 | 8 | 314 |

全体的に見ると、構文的意味の分類では「する・なる」と「様態」が多くなっており、スペイン語の分類では「動詞」「形容詞(述語的補語)」「副

詞（～mente）」の項が多くなっている。

「する・なる」と「動詞」という全体的に多い項が掛け合わさったところが多くなるのは当然であるので、全体的な分布状態を見て比例配分する必要がある。例えば、「する・なる」と「動詞」の項の比例配分した値は

$$112 \times 155 \div 314 = 55.29$$

である。これが理論値の欄に書かれている数字である。理論値の欄の下には「実測値÷理論値」の比を表した数字を書いた。この比は実測値の片寄りを表わしている。比が1のときは片寄りが見られず、項目に特別な意味がないことを表し、1より大きくなればその項目は関連があることを表す。

この比に注目しながら、形容詞連用形の分類にそって見てみると次のことがわかる。

1. 「する・なる」を後続させる形容詞連用形はスペイン語では動詞または形容詞（述語的補語）に訳されることが多い。
2. 「結果」を表す形容詞連用形はスペイン語では主語・目的語を被修飾名詞とする連体修飾語になることが多い。
3. 「内容」を表す形容詞連用形はスペイン語では形容詞（述語的補語）や動詞一語に訳されることが多い。
4. 「様態」を表す形容詞連用形はスペイン語では動詞を名詞化した語を修飾する形容詞になったり、「～mente」を持つ副詞になることが多い。
5. 「程度」は「様態」と同じ傾向である。
6. 「時間・場所」「判断」については用例が少なく、判断しがたいが、傾向としては副詞にそのままなるとしてもよさそうである。

このように見てくると、形容詞連用形の構文的意味とスペイン語訳の品詞とはかなり関係がありそうに見える。

そこでまず、用例数の少ない「時間・場所」「判断」を除いて、項目間の距離を出してみることにする。これは「内容」「様態」の関係と「結果」「内容」の関係とはかなりの違いがありそうだから、それを数字で見たいからである。これには $a \times b$ 分割表の形にまとめたものには使用でき

るといふ「分割表項目数量化の荻野法」³⁾を利用した。荻野法は項目間の類似関係を分割表に記入された数値を利用して計算し、数量化したものである。ここでは最小を0、最大を5としてその間の距離として表されている。小数第3位まで有効数字として出してみた。

形容詞連用形の構文的意味の項目

| | |
|-------|-------|
| 内 容 | 0 |
| する・なる | 0.008 |
| 結 果 | 1.534 |
| 様 態 | 3.985 |
| 程 度 | 5 |

スペイン語訳の品詞の項目

| | |
|----------------|-------|
| 形容詞（述語的補語） | 0 |
| 動 詞 | 0.853 |
| 形容詞・連体（主語・目的語） | 1.030 |
| 副詞（～mente） | 4.686 |
| 形容詞・連体（動詞の名詞形） | 5 |

これから、形容詞連用形は「内容」「する・なる」「結果」「様態」「程度」の順になり、「結果」と「様態」の間が2.4以上もの差があり、そこで大きく分かれることが明らかになった。同様にスペイン語訳では、「形容詞連体（主語・目的語）」と「副詞（～mente）」の間が3.6以上も開き、そこで大きく分けることができる。

日本語・スペイン語の項目をそれぞれ2分した2×2分割表を作ると次のようになる。

| | 内容, する なる, 結果 | 様 態 程 度 | 計 |
|--------------------------|------------------|------------|-----|
| 形容詞（補語）, 動詞, 形・連体（名詞） | 190 | 19 | 209 |
| 副詞, 形・連体（動詞） | 6 | 86 | 92 |
| 計 | 196 | 105 | 301 |

これから関連係数⁴⁾を計算してみると

$$Q = \frac{190 \times 86 - 6 \times 19}{190 \times 86 + 6 \times 19} = 0.986$$

となり、非常に程度の高い関連を示していることがわかる。

おわりに

スペイン語との対照においては日本語の形容詞連用形は構文的な意味で大きく2種に分かれることが分かった。本稿で扱ったものは日本語教授項目のほんの一例であるが、スペイン語を母語とする日本語学習者を前にしたとき、形容詞連用形であるからということで不用意に両者を混同して提示することのないように心したいものである。

注

- 1) 連用修飾で数数が主語・直接目的語と一致するものは述語的補語と言われ、名詞・動詞両方を同時に修飾するとされている。
- 2) 「い形容詞」連用形には副詞的用法のほか、文を中止したり、打消の「ない」の前に付いたりする用法がある。また、「な形容詞」連用形には「——に」のほか「——で」があり、「——で」は文を中止したり、「ある」「ない」の前に付いたりする。本稿で形容詞連用形と言った時はこれらの中の副詞的用法のみを指すものとする。
- 3) 具体的方法については荻野（1980）及び水谷（1981）を参照。
- 4) 佐和（1974）72頁。

参考文献

- 会田由・長南実（1978）『スペイン語便覧』（評論社）
 荻野綱男（1980）「敬語における丁寧さの数量化」『国語学』120号
 興津憲作（1972）『中級スペイン語文法』（創元社）
 北原保雄（1981）『日本語助動詞の研究』（大修館）
 教科研東京国語部会・言語教育研究サークル（1963）『文法教育』（麦書房）
 国立国語研究所（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』（秀英出版）
 佐和隆光（1974）『初等統計解析』（新曜社）
 鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』（麦書房）

- 水谷静男 (1981) 「分割表項目数量化の荻野法に寄せて」『国語学』124号
- 宮城昇, エンリケ・コントレラス (1979) 『和西辞典』(白水社)
- Rafael Seco (1954) 『Manual de Gramatica Española』(Aguilar)